

会議名	第2回港区子ども・若者政策提案事業運営支援業務委託事業候補者選考委員会
開催日時	令和8年1月29日（木曜日）午前9時40分から10時20分まで
開催場所	港区役所4階企画経営部会議室
委員	野上 宏 港区企画経営部長（委員長） 相川 留美子 港区企画経営部企画課長（副委員長） 富永 純 港区区長室長（委員） 西川 杉菜 港区子ども家庭支援部子ども政策課長（委員） 中島 由美子 港区議会事務局次長（委員）
事務局	企画経営部区長室広聴担当 政策広聴担当 石川 久美子、広聴担当係長 井上 正彦、係員 田畑 凜子
会議次第	1 開会 2 第一次選考結果について 3 第二次選考について 4 閉会
配付資料	[データ配付] 次第 資料1 一次審査集計結果 資料2 第3回選考委員会進行スケジュール（案） 資料3 第二次審査の実施に関する留意事項（案） 資料4 第二次審査採点基準表（案） 参考資料1 募集要項（各様式を含む。） 参考資料2 選考基準 参考資料3 仕様書（案）
会議の内容	
事務局	【1 開会】～詳細省略～ 【2 第一次選考結果について】～詳細省略～ （事務局より資料1について説明）
委員長	評価したポイントなど、各委員から順番に講評をお願いします。
委員I	A社については、品川区で実績があるのは良いが、実施体制が心配である。社員が2人のみで、一人はベテランだがもう一人は実務経験が1年ないとのこと。採点基準表(1)イ提案の具体性の項目は、進行管理やスケジュールの具体的に記載がないと思ったため2点とした。個別相談はLINEを活用する、といった内容は記載されていたが、研究会においては具体的に何をやるか分からなかった。採点基準表(2)ア運営体制は先ほど申し上げた通り。また、

<p>委員Ⅱ</p>	<p>プレゼンテーションの場で子どもたちのどういうところを引き出すか不明瞭だった。</p> <p>B社は、支援の具体的な手法が記載されており、3社の中で一番高く評価した。運営体制について、これまで自治体での経験がないと思われるので、事前に事務局との調整が必要になると思う。また、全体を通して、聞き慣れないカタカナの言葉が多かったので、子どもたちが理解できるように説明が必要になるだろう。</p> <p>C社も従業員が少なく、運営体制が心配。自治体の職員だった方もいるが、港区のやり方に沿うかどうか。採点基準表（1）ア業務趣旨の理解については、子ども若者向けかどうかという点で不安要素があった。政策の実現に向けた検討として、関係企業が記載されているが、実現の具体性が記載されていない。</p> <p>A社は事業経験があるので、目的は十分理解したうえで提案されているのが良い。フォロワーという役職を置いて、子どもたちの不安を取り除くことを提案していることが評価できる。一方で、提案について裏付けとなるデータに関する表記が薄い。また、提案後の事業の実現から参加者へのフィードバックの進め方については、プレゼン審査の際に聞いてみたい。採点基準表（1）イ提案の具体性については、様式7の補足資料にてイメージできたため5点とした。また、当日参加できない児童のフォローについても記載されていたが、スケジュールについては読み取れない部分もある。採点基準表（2）ア運営体制については、人員というより、進め方の体制という視点で付けた。プレゼンテーションの際の確認事項をきちんと表記していると思った。</p> <p>B社は、若者の政策提案という目的は理解しているようだが、主権者教育という視点や、政策立案につなげるための子どもたちへの社会課題を捉える仕掛けの視点が欠けているかと思った。また、研究会の具体が読み取れなかった。一方で、デザイナーが担当者に入っており、プレゼンの精度や技術的な支援は期待できる。政策提案に向けては、客観的な指標が具体的に示されているため、具体的な実現につなげるために必要な点として評価できる。</p> <p>C社は、事業の目的を抑えたうえで、子ども向けの事業であるという認識があると思った。初めて参加する子どもたちが安心して参加できる工夫がある。事業の目的を子どもたちに学んでもらいながら進めていくという構成も良い。政策提案に向けては、プレゼンの内容をブラッシュアップし、客観性を持たせるという意味では、専門性を持った人員配置が提案されている。実現性が担保されているかと思い高く評価した。採点基準表（1）ア業務趣旨の理解については、子どもたちが事業の理解を深めるためのゲームを準備するほか、年齢の近いスタッフを配置するという点で高く評価し5点とした。点差に2点以上の開きがある項目について、採点基準表（2）イ プレゼン</p>
------------	--

<p>委員Ⅲ</p>	<p>テーション支援については、模擬発表の時に専門知識のある人がアドバイスする仕組みが提案されている点を評価し、5点とした。採点基準表(3)イ 研究員へのフィードバックについては、研究員の自主的な活動も視野に入れている点で他の事業者との違うと思い、5点とした。</p> <p>A社は、従業員が2人であるということと、アドバイザーが外部の方のように思われる。品川区での実績があるとのことだが、その2人で品川区と港区と両方受託することになると、こちらに注力してくれるのか不安が残る。</p> <p>B社は、必ず研究会において基礎講義を設けるなど、毎回の研究会が丁寧にフォローされていると思う。また、デザイナーからプレゼンのアドバイスを受けられるという意味では、サポート体制がよいと評価した。</p> <p>C社は全体的に提案の具体に欠けると感じた。点差に2点以上の開きがある2項目について、採点基準表(2)イ プレゼンテーション支援は、全体の体制に不安があったため、2点とした。(3)イ 研究員へのフィードバックについては、政策につなげる段階で、研究員の提案する政策を、研究員から切り離して担当部署と協議するように感じ取れたため、業務理解を含め、フィードバックの点は低く評価した。</p>
<p>委員Ⅳ</p>	<p>A社は品川区で同様の事業実績があることもあり、具体的な提案である。一方で、プレゼンテーションの部分は記載内容に不安がある。また、先ほど別の委員からも発言があったように、二つの自治体を受託した場合、体制として問題ないのかが不安要素である。また、先行自治体の二番煎じのような内容になってしまうのではないか。</p> <p>B社は、会社としての体制がしっかりしているという点は評価できる一方、これまでの実績に鑑みて、子どもの思いを引き出すなど、子どもたちとのコミュニケーションが心配になった。また、資料の記載の仕方が悪いだけなのかもしれないが、様式7に区民の声を起点に、と記載されている点について、子どもの声を政策につなげるという目的を理解しているのだろうかと少し不安が残った。</p> <p>C社は、子どもを引き付ける仕掛けや、EBPM的な視点は評価できると思った。一方、実施体制が弱いことと、研究員へのフィードバックの工夫が、企業連携の話になってしまっていることが気になった。</p>
<p>委員Ⅴ</p>	<p>A社は品川区での実績や業務理解は十分だと感じる。グループ編成やスケジュールの具体性が欠けているほか、政策提案の客観性、事例調査の具体的な提案が若干弱い点が気になった。また、プレゼンテーションの支援体制について詳細に記載されており、実現性が高いと思う。フィードバックについては、担当課への取材を必須化している点や、国、地方の役割などの理解があ</p>

	<p>る点が評価できる。</p> <p>B社は研究会のステップとその内容について、具体的な提案があった。フィールドワークの準備も具体的である一方、ファシリテートについての言及がなかった。また、検討会、練習会、資料作成支援が示されていたのはよかった。フィードバックについては、実現内容や対応可能性の工夫はあると思ったが、深く説明されていない点は残念。</p> <p>C社は、業務趣旨をどのようにとらえたのか、提案の根拠が欠けていると感じる。政策提案後のフィードバックについては、研究員が関与せず、民間連携がメインになっているのがどうか。政策プレゼンの支援については、他社に比べて突出しているというわけではなく、平均的だと思った。</p>
委員長	<p>各委員の意見を踏まえ、自身の採点を変更する委員はいるか。採点を変更する場合は、手元の採点表に朱書きで修正すること。</p>
事務局	<p>A社 682 点、B社 693 点、C社 664 点となった。</p>
委員長	<p>一次審査の評価点数については、この点数で決定してよいか。</p> <p>(異議なし)</p>
委員長	<p>二次選考に進むのは3事業者すべてとする。</p>
事務局	<p>【3 第二次選考について】 (事務局より資料2～4について説明)</p>
委員長	<p>共通質問は設けず、各委員が一次評価で不明に思った点を質問してもらえばよいと思うがどうか。また、二次審査のスケジュール・方法については、事務局案の通りといたしたい。</p> <p>(異議なし)</p> <p>【4 閉会】</p>